

【報告】『第2回 のみ SDGs 円卓会議』



11月15日(月)に、能美市ふれあいプラザで「第2回のみ SDGs 円卓会議」を開催しました。

第2回目となった今回の会議は、これまでに2度開催した「のみ SDGs 専門分科会」の報告を主な議題とし、委員のみなさんから質問や意見をいただき、次回以降の専門分科会に生かしていくことを目的としています。

ボリュームの多い報告となりましたが、委員のみなさんからは客観的かつ視座の高い意見をいただくことができました。

「お人柄プロジェクトについて」

各専門分科会の報告に先立ち、能美市企画振興部市長戦略課 SDGs 推進室 吉田主査より、「能美市お人柄プロジェクト」について説明しました。

能美市の地域力、市民力をさらに高めることを目指した「能美市お人柄プロジェクト」では、能美市を守り、支える能美市民のお人柄を「極めるお人柄」「思いやるお人柄」「つなぐお人柄」と表現し、SDGs を通じて育てていきたいと考えています。

お人柄プロジェクトについては、「視点としては良い」「能美市の一番大切にしたいところを表せている」とコメントをいただく一方、「やや抽象的でわかりにくいいため、具体的に説明できることが大切」との指摘もいただきました。

意見交換

続いて、山本座長の進行で、10月から11月にかけて行った第1回、第2回の「のみSDGs 専門分科会」についての報告と意見交換を行いました。

「のみ指標」「情報発信」「パートナーシップ制度」、それぞれの議論内容や挙げた意見などを事務局から報告するとともに、委員のみなさんから意見やアドバイスなどをいただきました。

下記に主な意見をご紹介します。

①のみ指標について

- ・市民の価値観、心の豊かさなど、見えないものを測ろうとするため難しさが伴うだろうが、持続可能な地域であることを示せるような指標になると良い。
- ・必ずしも数値が指標になる必要はないが、各項目について「改善した/していない」が検証できるように整えていただきたい。

②情報発信について

- ・ホームページを市のSDGs にまつわる情報が集まるポータルサイトに位置づけ、加えてSNS やオフラインの手段（回覧板や口コミ、チラシなど）等、複数のチャンネルを持つと良いのではないか。
- ・子どもを起点に、家庭でのSDGs の普及が期待できる。また、子どもは学校でSDGs について学び、「こうなれば良いな」というビジョンを持っている。それらを発信することで大人への動機づけを促せるのではないか。
- ・ホームページや相談窓口を市民が利用するよう、前段階としてSDGs の普及方法を検討する必要がある。

③パートナーシップ制度について

- ・登録対象者に向けて、それぞれの活動とSDGsのつながりを知る勉強会等を開催することは大切だが、それ以上にその後どうするのか、今後、何をを目指すのかというビジョンをつくること、「これから何ができるか」を問う機会が肝心ではないか。
- ・パートナーシップ制度の登録要件が細かく、難しいと興味を持ってもらえない。できるだけハードルを下げたほうが良いのではないか。



全体を通しての意見交換

最後に、3つの分科会全体に対する意見をみなさんからいただきました。

- ・SDGsを進めていくには、パワーやエネルギーが必要。掛け声となるような分かりやすい合言葉があると良いのではないか。
- ・SDGsを、「行政からやらされている」という感覚で取り組むのではなく、「取り組むことでみんなの幸せにつながる」と皆が理解した上で取り組めるよう仕掛けをすることで本来の意味でのSDGsに近づくだらう。
- ・具体的な活動項目を設定し、確実に情報発信をし、情報を受けてつながった結果パート

ナーシップが生まれる、というようにそれぞれが相互に連携し機能していく様子が見られる。今後もしっかりと取り組んでいただければ、きっと上手くいくだろう。

分科会での議論を後押しするような、たくさんの建設的な意見やアドバイスをいただきました。

「次回の専門分科会で、他の分科会がどのような状況であるか共有していただいたほうが良い」との意見も出るなど、3つの分科会の相互の連携が今後より重要になっていくことを確認できました。

今回、出た意見を専門分科会メンバーにも共有し、多様な意見を取り入れながらそれぞれの取組テーマをより良いものにしていきたいと思います。